

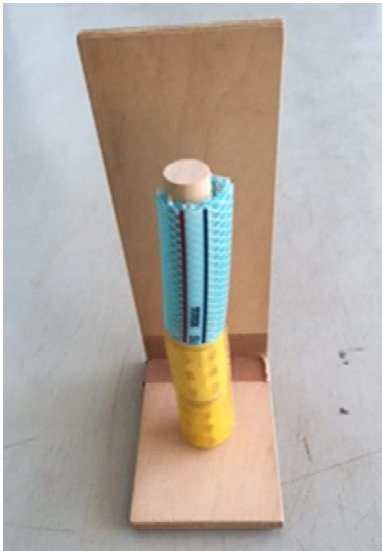
## ① 初期学習

…感覚、運動、姿勢を相互に関係づけながら、自発的な動きを高める。

※自立活動のページにも掲載あり。

教材について

- (教材名) 「筒抜き」  
(ねらい) ・上方向または左右方向を理解する。



- ・たてでも横に倒しても使える。
- ・パイプ（筒）の素材をいろいろ用意して、子どもが触りやすいもので取り組んだ。

教材について

- (教材名) 「ボール落とし」  
(ねらい) ・ゴルフボールを探してさわる。



- ・ボールを見つけて触ったり、押し込んだりすると、音が鳴るようにした。
- ・はじめにボールに触れさせて、探すものがわかるようにし、穴に押し込む。

## ②概念形成の基礎学習

…分類、見本合わせ、形、位置、方向、順序などの学習を通して、基準をもって物事を整理することを知り、文字ことば、数につながる基礎的な力を育てる。

教材について

(教材名) 色合わせ・仲間分け

(ねらい) ・3色のスプーンとフォークを使って、色合わせや仲間分けをする。



同じ教材を使って2種類の課題ができる。  
身近なスプーンとフォークを使った。

教材について

(教材名) 「ひとつのお部屋にひとつずつ」

(ねらい) ・「始め・終わり」「順番」を意識する。

(積み木やタイルを両手に握ってしまい、なかなか操作できない自動や積み木を積んだり並べたりすることはできても終わりの意識が難しい児童へ)

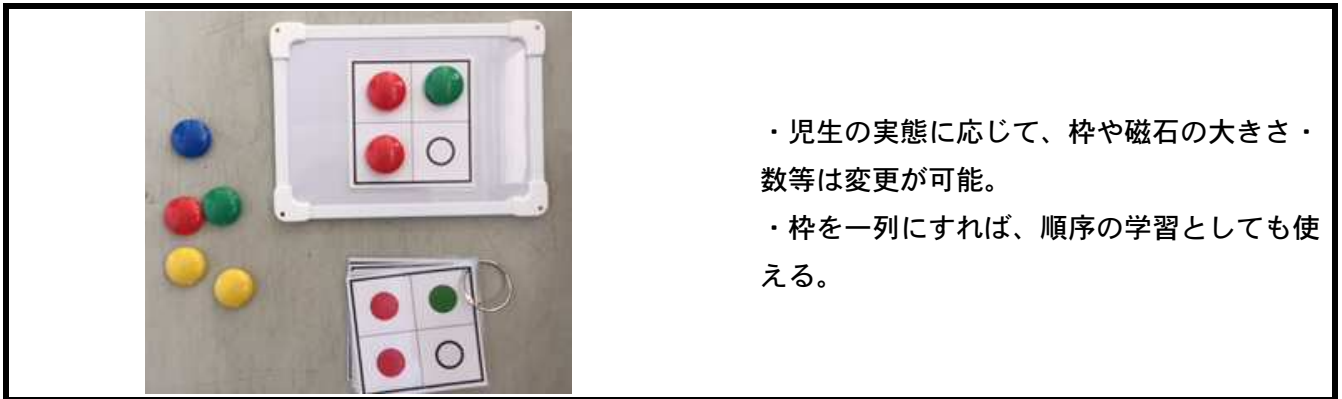


・1つ入れたらパチンとふたをすることで、それ以上入れられない。全部しまったら終わり。  
・縦や横に提示する。いずれはふた、または半具体物に数字をつけて数の概念につなげる。

教材について

(教材名) 「見本と同じ位置に磁石を貼ろう」

(ねらい) ・見本と同じ位置が分かり、同じ位置に磁石を貼ることができる。



- ・児生の実態に応じて、枠や磁石の大きさ・数等に変更が可能。
- ・枠を一行にすれば、順序の学習としても使える。

教材について

(教材名) 「型はめ」

(ねらい) ・形の弁別ができる。

・色（赤・青・黄）の弁別の基礎をつくる。



- ・型を提示して、型はめをしたり、黒い板を両側に置くことで、形の見比べをしたりする。
- ・本体を枠がわかれているため、児生の実態に合わせて、形や大きさ、色等を変えられる。

教材について

(教材名) 「色分けペグさし」

(ねらい) ・目と手の協応を引き出す。

・色別に分けることができる。



- ・裏がマグネットになっているため、置き方、並べ方を変えられる。

教材について

(教材名) 「マトリックス」

(ねらい) ・異なる2つの要素を組み合わせることで1つを構成する。



・色の反映が難しい子どもに対して、スプレー噴射のイラストを使うことで、イメージしやすくした。

### ③記号操作の学習

教材について

(教材名) 「同じ仲間で分けよう」

(ねらい) ・文字を見て、「色」あるいは「形」で分けることができる。



・黒地に白文字にし、視力の弱い児生に見やすくした。

・同じ教材で、色分け・形分けの課題に取り組むことで、しっかり文字を見て何が問われているか考えられるようにした。

教材について

(教材名) 「洗濯バサミとめ」

(ねらい) ・物を操作しながら、数の理解に結びつける。



・印がついているところに洗濯バサミをとめる。

・操作しながら、数のまとまりがイメージできたり、色や順番も意識できたりするとよい。

- (教材名) 「“同じ”がわかる」  
 (ねらい) ・文字を見て、絵や色を選ぶことができる。  
 ・絵や色を見て、文字を選ぶことができる。



- ・枠を使う。見本の文字 (or 絵・色) を置き、それに合うものを選択肢から選んで置く。  
 ・裏返しにすることで、“同じ”になり、答え合わせができる。

教材について

- (教材名) 「動きのことば」  
 (ねらい) ・ことばと動作を一致させる。



- ・日常生活でよく用いる動詞を選んで作成した。  
 ・カルタ形式で、楽しみながら取り組めるようにした。

教材について

- (教材名) 「動きのことば」  
 (ねらい) ・ことばと動作を一致させる。

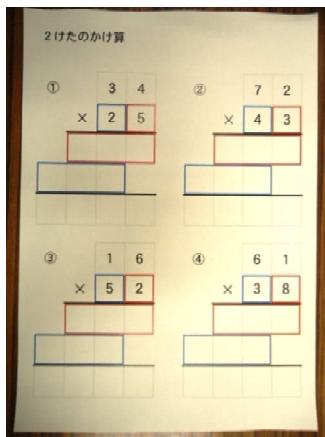


- ・身近な持ち物を取りあげ、文字への関心を高められるようにした。  
 ・正解の組み合わせだと、ぴったり合わせることができる。

教材について

(教材名) 「二桁のひっ算 (かけ算)」

(ねらい) ・位を意識して、二桁の乗法ができる。



・一の位を赤、十の位を青で示し、かけ算の答えを色で示された下の位に記入する。

教材について

(教材名) 「足し算かな？引き算かな？」

(ねらい) ・イラストを見たり操作したりして、足し算もしくは引き算を考え、立式する。



・実際にマグネットが増えたり減ったりする様子を見ることで、イメージしやすくなり、立式の手助けとなる。

教材について

(教材名) 「かさじぞう再現セット (かさ、俵、地蔵におじさんがかさをかぶせる場面)」

(ねらい) ・場面を再現し、役になりきることで、登場人物の気持ちや思いを考える。



かさ



たわら



かさじぞう

・かさと俵は実物大とした。  
・地蔵は机の上に置けるサイズにして、全体像がつかめるようにした。